

平成 28 年度「みえの現場 “やっぱし” すこいやんかトーク」の概要

平成 28 年 9 月 4 日（日）に、三重県人権センターで、「みえの現場 “やっぱし” すこいやんかトーク」を開催しました。

当日は、現在子どもたちを養育されている里親の皆さん 7 名に、里親になられた経緯や思い、子どもを養育されている中での大変さや楽しさなどをお伺いしました。



【参加者からの発言】

三重県里親会事務局長の奥野さんより里親会の活動をご紹介いただいたあと、知事とメンバーの皆さんでフリートークを行いました。

（活動紹介）

○三重県里親会は県内の里親登録をしている世帯による正会員と、里親制度についてご理解をいただいている方々による賛助会員で組織されている団体です。

○里親養育相互援助事業（里親サロン）では、交流会や研修会など、全県的に里親子の集いなどを行っています。里親として養育していく子どもたちは、心に大きな喪失感などを持っていることがあります。それが実際の育てにくさにもつながっている部分もあり、先輩里親からのアドバイスは大きな支えになっています。

Q 里親になられた経緯や想いを教えてください。

○子どもを授かりたい、家族を増やしたいという気持ちで里親になりました。今まで一度も子どもを育てた経験がないので不安はありましたが、世の中のたくさんの方がされていることなので、頑張ってみようと思って決断しました。

○施設に勤めていたとき、子どもたちがお盆やお正月に里帰りをする際、帰る場所

がない子がいて、そういう子どもたちを家庭に迎え入れたいと思ったのがきっかけで里親登録をしました。

- 仕事で様々な状況をかかえるお母さんや子どもたちのことを知り、その方たちの応援団になりたいという思いがきっかけです。その思いをパートナーに伝えてみたら、同じ思いを持っていたことを知りとても驚きました。
- たまたま市の広報誌の「里親になりませんか？」という小さい記事が目に入ったのがきっかけでした。夫婦の間では、依頼があったら、男の子であれ女の子であれ、どんな年齢だろうが自分たちとの縁だと思って必ず受けようと決めていました。
- 知り合いで特別養子縁組をされた方がとても家族仲良くされているのを見ていた夫の両親が、私たちに「里親になったら？」と勧めてくれました。自分たちだけではなく、両親の助けがあることは一番の決断になりました。

Q 子どもを養育されている中での大変さや楽しさ、その他課題などもあればお聞かせください。

- 里親登録したとき実子は思春期だったのですが、親の子どもへの視線が分散され、程良いバランスで思春期の緩和にもなったように思います。実子にとってもよい経験だったと思います。
- 実子は成人してみんな実家を離れているので夫婦二人だけの生活になっているところを、この子のおかげでとても楽しく生活させていただいています。
- その時々之苦労はあったと思いますが、どの子にもあることですし、里子だからとか里親だからというものでもないと思います。今はそれも楽しんでいきます。
- 児童相談所の担当の方について、できれば何年か同じ方に担当していただけるとありがたいです。
- 愛されていることを信じて疑わない暮らしを送ることは、本当は全ての子どもが当然のこととして受けるべきもので、うちの子をみていると本当にそれを感じ、それが里親のやりがいになっています。
- 家庭に受け入れて間もない頃、子どもが自分の気持ちを上手くコントロールできず大声をあげていたことがありました。ご近所の方に迷惑だろうと相談したら、「色々あって当たり前」というような温かい声をかけていただき、とても励まされました。地域の温かい眼差しがあるのとないのでは、里親の苦労も全然違うと思います。
- 地域の行事でみかん山へ行ったとき、うちの子が自分よりも小さい子の手をひいて、時にはおんぶしながら目的地まで行ってくれました。本当に優しい心を持った子だと実感し、本当にうれしかったです。
- うちは、一番最初から里子だということを近所の方に伝えていて、地域全体で見守ってくれていますが、どの地域でも同じように大人が見守ってくれるような社会になってくれたらと思います。
- 出掛けるときに子どもに「よそ行きの服装でね。」と言った言葉の意味が分からなかった経験から、この年齢なら知っているだろうということでも経験がなく知らないこともある、という認識で里親活動をしないと、子どもを傷つけてしまうことがあると思いました。

- うちの子の一人が本当の親との交流を始める時期になったとき、もう一人の子が自分には会いに来てくれる人がいないんだと泣いていました。小学生の低学年の二人には、まだお互いの家庭環境が理解できないので、そういう部分を夫婦二人でできるだけフォローしていくことが課題かなと思います。
- 社会全体に“養育里親は養子縁組とは違い、育てられる環境が整うまでのつなぎをしてくれる人だ”という啓発を続けていただきたいと思います。
- 里親は海外に行ったら当たり前。日本でも「あなた里親登録していないの？」というくらい当たり前の社会になればと思います。

【知事の発言】

- 里親にもいろいろなバリエーションがあり、例えば数か月などの短期から始めてみるのも一つの方法だということは大切なインフォメーションだったと思います。
- いろいろな立場や場面において、思っていることをまず口にしてみる、みんなで考えてみるということがとても大切だと実感しました。
- 地域の中で子どもと接する機会を増やしていくことが、里親になってみようと思ったり、いろいろなきっかけにつながると改めて感じました。
- 来年度からは、保育士や教員など子どもに関わった経験のある方への啓発をさらに強めていこうと思っています。
- 人事異動については、異動があっても個々の状況を引き継いで、すぐに対応できるような体制にしたいと思います。

